



3/25
30

災害時応援協定を締結



▶ 澤島会長(右)

災害時応急対応活動として行うボランティアセンターの設置およびそれに伴うボランティア活動を円滑に実施するため、町社会福祉協議会と協定を締結しました。澤島会長は「ボランティア活動に対する環境整備が進んでいることは非常に喜ばしい」と話され、早野町長は「この協定を機に今後ともお互いに協力していきたい」と述べました。



▶ 岡村社長(右)

災害時において、町の要請により移動式宿泊施設等の提供を受けるため、株式会社デベロップと協定を締結しました。岡村社長は「町とコミュニケーションを取って有事に備えたい」と話され、早野町長は「有事の際の体制を整えることができ、非常に嬉しく思う」と述べました。

3/30

「災害時における応急生活物資供給に関する協定」「地域見守り活動に関する協定」を締結



▶ 大坪理事長(中央)

町内で大きな災害があった際の被災者への応急生活物資の供給や、事業活動を行う際、住民などの異変の発見や状況の確認を支援につなげるため、生活協同組合コープぎふと協定を締結しました。大坪理事長は「強みである全国的なネットワークを生かし、万が一の際は迅速に対応したい」と話し、早野町長は「安心安全なまちづくりへの協力に感謝する」と述べました。

3/29

地域産業の振興に関する連携協定を締結



▶ 寛常務取締役(右)

町は、中小企業・小規模事業者及び創業への多様な支援に関して、質の高い支援策を地域に提供し、地域産業の振興を図るため、株式会社大垣共立銀行と締結しました。寛雅樹常務取締役は、「ウクライナ情勢や新型コロナウイルス感染症など、取り巻く環境は厳しいものとなっている。そのような状況下でも、日本の経済を支える中小企業は地域活性化の源であると認識している。町と手を取り合って連携を図り、地元へ貢献したい」と述べられ、早野町長は「地元の金融機関と連携を図ることで中小企業への支援策をさらに強化し、伴走型支援として継続していきたい」と述べました。



垂井から全国の舞台へ

3/10



岩田 昊虎さん(表佐小6年)

3/23



奥地 暖空さん(北中1年)

いずれも第44回全国JOCジュニアオリンピックカップ
春季水泳競技大会に出場

小さな行動が 未来につながる ～今すぐできる 私のSDGs～



今月の取り組みさん
三輪 桜樹さん

Profile

ジャンプが得意な、バレー部で頑張る中学生。
明るく元気で、自分の意見をはっきりと伝えることができることが取り柄

「ポイ捨てはしません！」それが、私のSDGsです。
「先にごみを捨てている人がいるから、自分も捨ててもかまわない」という声を聞くことがあります。その積み重ねでどんどん汚くなってしまいます。また、ごみとして処分されているものの中には資源になるものがたくさんあります。
垂井町がきれいで、ずっと住みたいと思えるまちであるためにも、大切な税金を無駄に使わないようにするためにも、僕は、ポイ捨てはしません。

あなたが実践する、“私のSDGs”を教えてください。

問 企画調整課 地域振興係 ☎22-1152

3/30

電池類回収の覚書を締結



リチウムイオン電池などの小型の充電式電池や乾電池を町内共同で回収するため、町内の家電販売店6店と「使用済小型充電式電池及び使用済乾電池の収集に係る連携と協力に関する覚書」を締結しました。電池の処分は「家電のプロ」まちの電気店にご相談ください。

○協力店舗

垂井町新井687-2	エリス原	23-2179
垂井町1550-11	錦声堂	22-0231
垂井町新井390	タカギ家電住設	22-5062
垂井町栗原229	タガデンキ	22-1528
垂井町綾戸348-2	広瀬電機	22-0544
垂井町宮代3055-1	マツヤデンキ垂井店 有限会社大石電気垂井店	22-1173

3/26

垂井SDGsマルシェを開催



雨のため、役場庁舎北側の通路での開催となりました垂井SDGsマルシェ。町内事業者やNPO法人など8店舗が出店し、テイクアウトの飲食や、物販、体験ができるワークショップなどで、多くの来場者を楽しませてくれました。会場内では出店者が意識するSDGsを掲げ、SDGsを知ってもらうきっかけづくりにもなりました。